

日本湿地学会会誌『湿地研究』執筆要領

(2015年1月 改定)

(2018年9月1日改定)

(2018年10月21日改正)

(2019年6月16日改正)

(2022年3月24日改正)

1. 投稿原稿の構成

投稿原稿の構成は次のとおりとします。

- 1) 投稿票
- 2) 本文
- 3) 引用文献リスト
- 4) 図（タイトルと説明文を含む）
- 5) 表（タイトルと説明文を含む）

2. 投稿票

投稿票には以下の内容を記すこと。

①査読付き論文（「原著論文」、「実践研究」、「総説」、「研究ノート」）の場合

- 1) 掲載記事の種類
- 2) 和文表題
- 3) 英文表題
- 4) 和文著者名
湿地学会会員，非会員の別を併記のこと。
- 5) 英文著者名
- 6) 連絡対応著者の氏名と連絡先（所在地，電話番号，メールアドレス）
- 7) 和文所属機関名
- 8) 英文所属機関名
- 9) 和文要旨

和文要旨は全角 600 字程度とする。要旨は独立して扱われることがあるため，本文中の節・項，式，図表を引用してはならない。また一般的でない略記法，記号，術語は定義せずに使用しないこと。句読点，仮名づかい，数字・生物名・単位の表記法・使用方法については，3. 本文についての要領に準ずること。

- 10) 英文要旨（「原著論文」のみ必須，「実践研究」，「研究ノート」，「総説」については任意）

英文要旨は 400 語程度とする。執筆上の注意点は和文要旨に準ずる。

- 11) 和文キーワード (5 つ程度)
- 12) 英文キーワード (5 つ程度, 「原著論文」のみ必須, 「実践研究」, 「研究ノート」, 「総説」については任意)

②査読無し記事(「事例紹介」, 「トピックス」, 「書評」, 「会告」, 「その他査読なし記事」)の場合

- 1) 掲載記事の種類
- 2) 和文表題
- 3) 英文表題
- 4) 和文著者名
- 5) 英文著者名
- 6) 連絡対応著者の氏名と連絡先(所在地, 電話番号, メールアドレス)
- 7) 和文所属機関名

3. 本文

原稿は, 12 ポイント程度の文字, 1 ページあたり 30 行程度, A4 版の用紙に印刷できるようにする。上下左右には 3 cm 程度の余白を設ける。行番号・ページ番号を通してつける(行番号はページ毎に振りなおさず, 最後のページの最終行まで一連の番号をつける)。なお刷りあがりの 1 ページは概ね全角 2,200 字に相当する。

句読点は「,」「.」(全角)とし, 仮名づかいは現代仮名づかいを基本とする。数字はアラビア数字を用い, 3 桁ごとにコンマを入れる。生物和名はカタカナを用い, 報文の場合には初出箇所に学名(イタリック表記)を併記すること。なお学名の命名者名の記載は任意とする。

単位は国際単位系(SI 単位)を用いる。

章・節・項の見出しは下記のようにする。

章 1., 2., 3., ...

節 1.1, 1.2, ..., 2.1, ...

項 1.1.1, 1.1.2, ...

4. 引用文献の書き方

本文中で文献を引用する際は, 以下の例のように記述する。同じ著者が同一年に発表した異なる文献を引用する場合は, 発行年の後ろに a, b, c, ... を付して区別できるようにする。著者が複数にわたる場合, 3 名以上のときは第一著者のみを記し, 残りの著者は和文の場合には「ら」, 英文の場合には“et al.”とする。ウェブサイトを用いる場合も, 著者や発表年が明確な場合にはそれを記す。著者・発表年が不明瞭な場合も, サイト管理者名を引用文献

リストと照合できるよう記載する。印刷中（英文の場合 in press）という用語は、その論文が受理されている場合にのみ使用し、未受理の場合には本文中で「未発表」と記し、引用文献リストには記さない。

例 1：佐藤・小林（2008）によれば…，また Yamada et al.（2010）は，…

例 2：…と報告している（佐藤ら 2007，Kato and Obama 1998）。

例 3：…と報告している（佐藤 2006a，●▲県○○部 a，●▲県○○部 b）。

例 4：…と報告している（佐藤 2006b，小林 印刷中，●●省 2003）。

5. 引用文献リストの書き方

引用文献リストは、和文・英文の文献を論文・単行本などの別なく混在させて、著者の姓の頭文字のアルファベット順に、また同一著者の場合は発行年順に並べ、本文の最後にまとめる。各文献は以下の例にしたがって記載する。可能な場合には DOI (Digital Object Identifier) も併記する。ウェブサイトの場合には、URL と参照日を記す。

雑 誌

Hussain SA, Singh RK, Badola R (2008) An ecological survey of the Trans-Himalayan wetlands of the proposed Changthang Biosphere Reserve, India, for conservation planning. *Biosphere Conservation*, 9(1), 53-63.

野原精一・加藤秀男・高村典子・三上一（1999）十和田湖の水生植物の現状－1997 年の調査結果から－. 国立環境研究所研究報告，146，49-54.

○■▼△（印刷中）湿地の…の変化に関する研究. 湿地研究.

書 籍

呉地正行（2006）雁よ渡れ. どうぶつ社.

Mitsch WJ, Gosselink JG (2007) *Wetlands* 5th ed. John Wiley & Sons Inc.

章または分冊

Maltby E (1991) Wetlands and their Values. *Wetlands* (ed. Finlayson M, Moser M), 8-26. Facts On File Limited.

岡田操（2007）雨竜沼湿原. 北海道の湿原（辻井達一・岡田操・高田雅之編著），76-79. 北海道新聞社.

報告書等

○△省○■局（2003）平成 14 年度○○検討業務報告書（○△省○■局△○事務所，株式会社△▼，平成 15 年 3 月）。

ウェブサイト

〇〇省（2003）日本の▼■についての集計結果.<<http://www.xxxx.yyyy/zz.html>>（参照 2005 年 4 月 17 日）

●▲県〇〇部 a, ●▲県の動植物の現状.<<http://www.aaaa.bbbbbb.cccc/shokubutu.pdf>>（参照 2008 年 12 月 10 日）

●▲県〇〇部 b, ●▲県の湿地の変遷.<<http://www.aaaa.bbbbbb.cccc/shicchi.pdf>>（参照 2008 年 12 月 10 日）

上に示した記載方法が取りにくい資料の場合も、著者名、出版時期、タイトル、出版地、出版元などに関する情報を可能な範囲で記載し、読者による参照が可能なようにする。

6. 引用等に関連する著作権に関する注意

原稿中に他の著者による文章や図表等を引用する場合は、投稿者の責任において事前に著作権者から了解を得ること。

7. 図表

図（写真を含む）および表は、本文中に組み込まず 1 つずつ別紙に書く。1 つの表は 1 ページに印刷できる大きさとする。1 ページを越える表については 2 つ以上に分割すること。図表は刷り上がり時の横幅寸法がほぼ 7 cm または 15 cm となることを想定して、明瞭な原稿を提出すること。

図と表は、和文原稿では図 1, 表 1, 英文原稿では Fig. 1, Table 1 Fig. 1, Table 1 のように通し番号を付けて表記する。図と表には本文を読まなくても理解できる程度の説明文を付ける。本文が和文の「原著論文」については、図表の説明文は原則として和文と英文を併記すること。本文が和文の「実践研究」、「研究ノート」、「総説」については、英文の併記は投稿者の任意とする。

図表の本文挿入箇所を本文中に前後に空白行を入れたうえで、

図 1 あるいは Fig. 1 挿入箇所

のように指示する。

8. 投稿時の提出物

投稿時には、1. **投稿原稿の構成**に指示する 1)~5)をその順で 1 つの pdf ファイルにまとめて提出する。ファイルサイズは 5MB を超えないよう努めること。投稿は電子投稿を基本とするが、電子媒体（CD-ROM 等）を同封した郵送も受け付ける。

9. 投稿先・問い合わせ

原稿は下記の編集委員会に送付する。投稿する際の電子メールにはタイトル欄(subject 欄)に「湿地研究投稿原稿_〇〇」(〇〇は連絡対応著者の姓)と記す。

〒464-8662

愛知県名古屋市千種区星が丘元町 17-3

椋山女学園大学教育学部 日本湿地学会誌編集委員会 野崎健太郎

メールアドレス : journal@j-wetland.jp

10. 英文校閲

英文で投稿する場合は事前に英文校閲(ネイティブスピーカーによる校閲)を必ず行い、英文校閲の証明書の提出を必須とする。「原著論文」の英文要旨については、同様の証明書の提出を求めることもある。

11. その他

本要領は改訂されることがあるため、湿地学会ウェブサイトに掲載の最新の執筆要領を参照すること。また、本要領に定めのない事項については、編集委員会に問い合わせること。